

総括：山口県中世城館遺跡総合調査を終えて

服部，英雄
くまもと文学・歴史館：館長

<https://hdl.handle.net/2324/1936959>

出版情報：2018-03. 山口県教育委員会
バージョン：
権利関係：

総括

山口県中世城館総合調査を終えて（要旨）

＊『山口県中世城館総合調査報告書―周防国編』2018年掲載

城の三要素として、高さ、建物、水がある。いずれを欠いても、城は成り立ちえない。山に立地すれば、弓矢・投石・鉄砲全て上にいるもの、城に籠る兵士のみ武器が使用でき、攻める側、下にいるものは引力に負けて、武器が使えなかった。ところで城山に馬はいたのだろうか。つまり馬小屋があったのかどうか。山上には馬賣場（うませめば・調練場の意味）という地名があったりするし、あるいは籠城時の白米伝説（馬を洗っていると見せかけて白米を流したとする伝説）、朝鮮蔚山（ウルサン）城の事例（籠城絵図）からすれば、馬はいたはずである。馬の使用を前提とする城があった。馬は最高の兵器、いわば戦車であったから、馬なくしては平地戦に勝利できない。馬を備えることは、籠城からの反撃に転じることを想定している。馬を置かない城もあるが、その城はもっぱら短期間の守備に専念し、攻撃拠点にはなりえない。馬は飲料以外にも、蹄洗などで大量に水を必要とする。よって近世の城にあるような貯水池状の施設（馬洗い池）も必要とした。拡大された水の手（規模の大きな水を得る場所）が必要だった。